



じりつ「自律と自立」

指 宿 高 等 学 校
進路指導部 第 7 号
発行日 R 6 . 11 . 18 (月)

図書館だより 7 月号でおすすめした「孫子」の兵法(以下、孫子)を題材に受験について触れてみます。

孫子は、戦争で勝つ方法を説いた兵法書です。確かに、孫子には戦争でしか通じない表現もあります。しかし、現代風に解釈しなおし仕事に役立てられることは、多くのビジネス書があることから確かです。ここでは受験に向けての解釈を試みます。

1 全体戦略編

「兵は国の大事なり。死生の地、存亡の道、察せざるべからざるなり」

戦争は国家の重要な問題で、存続か、滅亡かの分かれ道なので、徹底して研究し、絶対に軽んじてはならないということです。ここでは「分かれ道」を軸に解釈を試みます。

皆さんの人生で 1 回目の主体的な選択、分かれ道は、高校選択だったのではないのでしょうか。様々なことを考え本校を選んでここにいるはずです。

この後も様々な選択が続きます。先のことはわからない、考えたくないとなっていていませんか？ 自分の高校生活を自分でハンドリングするには、卒業後を想定し、必要な情報を集め、自分にとっての意味を、徹底して研究し軽んじてはなりません。卒業後の想定が変わっても構いません。考えている時点で大事な「自分を見つめる」という宝を手にあります。



「彼を知り己を知れば、百戦して殆うからず」

相手と自分のことをよく知っていれば勝てる。

共通テストや上級学校の個別試験の出題の難易度や傾向を分析し、自分が合格に必要な得点レベルに達していれば、合格の可能性は高いという、当然のことに通じます。

ただし、これを実践していますか？ 解ける問題を何度やっても学力を伸ばしているとは言えま

せん。習いたてのことは、難しいと覚えることが多いはず。挑戦し、理解できたときに成長しているのではありませんか？

推薦入試の場合は、希望大学の研究内容を分析する必要があります。例えば、志望理由で機械を学び、ロケット技術の研究をしたいと述べても、その研究をしている先生がいなければ合格できないでしょう。他にも単なるあこがれや、ネットで軽く検索した上辺だけの志望理由は簡単に見抜かれます。

「死地に陥れて然る後に生く」

同意でよく知られているのは、漢の武将の韓信の「背水の陣」です。目標に向かってギリギリまで頑張り、一つずつ乗り越えていく努力をしていますか？



生き方の基盤や軸が、逃げずに全力で立ち向かった経験からできたという大人は多くいます。

ただし、頑張りすぎて心を壊すまで追い込むのは止めましょう。目標達成が困難で、心を壊すぐらいなら「三十六計逃げるに如かず」(南斉書)も 1 つの手かもしれません。落ち着いたあと、自分を見つめ、新たな目標を設定することも大事です。時によって、逃げるは恥でもありませんし、役に立ちます。

SNS、動画、ゲームなどの誘惑に負け、目標から目を反らし、必要な努力から逃げるのは別物です。

2 学習編

「勝つべからざるは守るなり。勝つべきは攻むるなり。守るは則ち足らず」

勝てないときは守りを固め、勝てるときは、攻勢に出なければならない。守りを固めるのは劣勢な場合である。

合格の基盤は基本問題を確実に得点できること、合格に至るには他の受験生が解けない問題でも得点できることです。

高難度の問題が解けないのは、基本を覚えていない、覚えていても使いこなせていないからです。基本が不十分(劣勢)なのに、難しい問題を分析できる(勝つ)わけがありません。基本の徹底とは、難問を分析できる応用力を持った域に引き上がっていることです。基本は、知っているだけでは駄目です。

「兵は詭道なり」

直接的な解釈は、戦争では騙してでも勝つです。確かに戦場では相手の想定を裏をかく奇策は戦いを有利にします。しかしビジネスでは誤解されがちな言葉です。これを現代に応用し解釈するときは、相手の“想定や期待を超える”と言われます。商品が、顧客の想定を上回るほど良いものならば、購入してもらえるでしょう。



そこで皆さん、学力を伸ばそうと努力している作問者の想定を超える努力に挑戦しませんか？

理科ならば次のような場面が考えられます。

- (1) 計算問題で答えの数値を使い、問題文では与えられている数値を求めることへの挑戦。特に複数回の計算が必要な場合、かなりの実力がつきます。別解の分析も大事です。模範解答は最短ルートを示しがちですが、少しの時間のロスで、他の方法で解答できるなら、少しでも得点につながります。また時折、何でこんな難しい表現をとるのか首を傾げる模範解答もあり、それへの執着が害になることもあります。
- (2) 類似事項の確認。炎色反応で Ca が問われたなら、 Na 、 Cu など他の元素も確認することで。炎色反応の他の元素は直接的事項なので一般には確認するでしょう。土壇場でも成績を伸ばした生徒は、少し飛躍の必要な類似性にまで考察を広げています。
- (3) 正誤選択型の問題の場合、誤った文の訂正を考える。誤った文の番号を選ぶ場合、挑戦できるのは1つだけですが、正しい番号を選ぶ問題は、解答以外の全てに対し挑戦できます。個人的には暗記系の「お宝問題」と言っています。
- (4) 工夫した計算。例えば 1628×5 を求めるのに筆算は不要です。工夫すれば $814 \times 10 = 8140$ と極短時間で済ませられます。この工夫は小学校で学習したのに忘れている人の非常に多い方法です。出題者は楽に計算できるように配慮をしているのに気づかないのはもったいないです。知らないがゆえに裏をかかれた状態にならないようにしましょう。
- (5) 過去の経験した類似問題との出題方法の違いの分析。これは解答を見てもできないことです。教員が指摘することもあります。自分でも調査したり、意識したりしましょう。

理科以外の教科でも通じるところもあると思います。「兵は詭道なり」の現代的解釈は、個人的には日ごろの学習で有意な言葉と考えています。

3 戦術編：テストの場面での対応力

「兵の形は水に象る。水の行は高さを避けて下きに走る。兵の勝は実を避けて虚を撃つ」

後半ですが、敵の兵力が充実した地(実)を避けて、手薄になっている地(虚)を攻めると勝利を得るということです。テストでは、難問に拘泥すると時間を無駄にします。まずは基本問題を確実に得点する必要があります。そのあと、可能な限り難しい問題を1つでも多く得点しなければなりません。

難関大学の合格には多くの受験生が難しいと思うような問題でも基本の範囲だといえる力が必要です。テスト中には基本問題と難問を的確に分別し得点を積み重ねる要領の良さも不可欠です。

仕事でも完璧主義者よりも70点や80点主義の人のほうが目標を達成しやすいと言われます。余裕を持たせていると、想定外のことに對し、即応できるからでしょう。これは前半の水に象る(自在に形を変えて対応する)にあらわれています。

4 最後に

古典には、現代にも通じる教訓が多くあります。ここでの解釈は、あくまでも筆者個人によるものです。他の解釈も多くあることでしょう。

気になった人は、漫画や読みやすくアレンジした本からでよいので手にしてみませんか？ 本校の図書室にも何冊かあります。